

ハイライトよねやま 53

(財)ロータリー米山記念奨学会

2004年7月12日発行

1. 寄付金速報 ~2003-2004 年度 寄付結果報告、ご協力感謝いたします!

2003-2004 年度の寄付金は約 15 億 2 百万円、前年度と比べ 5.9%減、約 9 千 5 百万円の減少となりました。普通寄付金が 3.3%減、特別寄付金が 7.0%減です。16 億円の目標は達成できませんでしたが、会員数減少の中、寄付増進にご尽力賜りましてありがとうございます。第 2590 地区【神奈川県横浜市・川崎市】が一人当たり平均寄付額のトップ(25,772 円)を維持しました。今年度も引き続き、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

2. 理事会・評議員会報告 ~奨学金額と採用数の縮減が決定~

新年度の事業計画と予算を決める 2003 年度第 3 回理事会・評議員会が、6 月 23 日に東京・新高輪プリンスホテルで開催されました。全地区から 102 名の理事・監事・評議員が出席して、2004 年度の事業計画、収支予算および奨学生募集人員と募集要項などを審議決定しました。

<主な決議事項>

1. 奨学金額と奨学生採用数の見直し

寄付金収入の減少を受け、2005 学年度の奨学金額と採用数は、右の表の通り、それぞれ縮減されます。

2005 学年度(4月~3月)の米山奨学金制度

	種別	月 額	採用数
米山奨学金	学部(YU)	10 万円	741 名
	修士(YM)	14 万円	
	博士(YD)	14 万円	
クラブ米山(CY)奨学金		14 万円	59 名
特別米山(SY)奨学金	SY-A	18 万円	
	SY-S	18 万円	
	SY-1	10 万円	
合 計			800 名

2. 地区および学友会補助費の改定

2005 年 7 月より、地区活動補助費は、奨学生人数によるスライド式に改定されます。学友会運営補助費・設立準備金は、2004 年 7 月より廃止されます。

3. 予算

寄付金収入予算は 15 億 1 千万円、奨学金支出予算は 15 億 8 千万円です。奨学資金特別積立金の取り崩しは 3 億円で、これを執行すると、特別積立金は 25 億 5 千万円となります。

2003 年度の寄付総額が 16 億円を下回ったことにより、奨学金額と採用数を縮減する厳しい会合となりました。慎重な審議を重ねた結果、奨学金額を平均 7%、採用数を 20%減とする案が採択されました。98 年以来、1,000 名を超える奨学生を支援してきたロータリー米山奨学金ですが、この数年ロータリー会員の退会、寄付金減少に歯止めがかからず、ついに大幅な削減を余儀なくされました。原因は、単に経済的なものだけではありません。ロータリーの「奉仕」とは何か、奨学事業の「使命」とは何か、そして「なぜ今、留学生支援なのか」といった事業の本質が見えにくくなっている現状への批判も大きいと思われます。

理事会・評議員会後に開かれたフォーラムでは、米山奨学事業を見直すために昨年実施した「第 2 期基礎調査報告」をたたき台として、“みんなで考えよう...私たちの米山奨学事業”の議論を行いました。財政危機の現実を直視しながらも、決して後ろ向きにならずに、日本のロータリアンが築き上げてきた奨学事業を前進させようとする意気込みを感じさせられたフォーラムでした。なお、このフォーラムは、2006 年度制度改編に向けてシリーズで開かれます。

(常務理事・事務局長 宮崎 幸雄)

3. フォーラム開催報告

理事会・評議員会合同会議の終了後、1時間半にわたるフォーラムが開催されました。高野副理事長、宮崎事務局長による基礎調査結果のプレゼンテーションの後、グループディスカッションが行われ、参加した理事・評議員から活発な意見が交わされました。



寄付については、「会長や幹事に対し、重点的に理解の浸透をはかる」「普通寄付を増額し、財源の安定化を」といった提案が多く寄せられ、関心の高さが伺われました。

表彰制度の改定については、寄付増進に有効であるとしながらも、「10万円が目標ではなく、2回3回と続けてもらえるような動機づけが必要」との意見がありました。

「日本に来ている学生だけでなく、アジアの大学に日本語学科をつくり、招致するような全面的支援をしたい」など、今後の奨学事業の可能性に関することや、当日決議された奨学生数縮減と奨学金減額に関する意見、交流のあり方などが議論されました。

今回のフォーラムの詳細は、後日、増刊号としてまとめる予定です。ご期待ください。

4. 指定校選定の期限、迫る！

2005 学年度の指定校決定報告が、各地区から続々と届いています。今年、各地区にお送りした『大学情報』では、4月に独立法人化した国立大学の動きや、国際競争力のある研究拠点をつくるために文部科学省が始めた 21 世紀 COE (Center of Excellence) プログラム、特色ある大学教育支援プログラムなど、大学を取り巻く環境についての情報も紹介しています。

昨年の「第 2 期米山奨学事業基礎調査」では、過半数のロータリアンが現行の指定校・大学推薦制度を支持しながらも、4人に1人が改善の必要ありと答えており、その改善要望のトップが「地域密着型大学や特徴のある大学を指定校に」でした。これは、現行制度の中でも地区の裁量で実現できるアイデアです。ぜひ、さまざまな情報を参考に、今年の指定校をお選びください。指定校報告の締め切りは、7月14日(水)です。

5. 米山学友の活躍 ~外務省の「ASEAN 留学生の意識調査」を手がけた林 保順さん~

マレーシア出身の米山学友、林 保順 さん【1991-93 / 千葉大学 / 千葉西 RC】は、(株)三菱総合研究所の研究員として、ビジネスの第一線で活躍中です。

林さんが最近手がけたのは、外務省委託の『我が国と ASEAN の留学生交流のあり方に関する研究』。その研究報告を兼ねたセミナー「我が国大学の国際化と留学生誘致戦略」が、6月22日に三菱総研本社ビルで開催されました。大学、留学生団体をはじめ、外務省、文科省、厚労省など、留学生に関わる教育・行政の関係者らが多数参加した中、林さんは、ASEAN 留学生の意識調査結果とともに、優秀で意欲的な留学生を ASEAN 諸国から誘致するための戦略モデルを発表しました。自らも ASEAN 出身の留学生だった経験を存分に生かす報告であり、国際化する日本のビジネスシーンの中で、活躍の幅を広げる米山学友の姿を物語るものでした。

林保順さんは、8月の理事会・評議員会の昼食の席で、スピーチを行う予定です。



(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当：峯・野津・大庭
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-3 abc 会館ビル 8 階
Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL : http://www.rotary-yoneyama.or.jp/